（　幼稚園　表現　）

表現することを楽しむための援助の工夫

―　絵本からイメージした遊びを通して　―

浦添市立当山幼稚園　　玉城　友美

目　　次

Ⅰ　テーマ設定理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅱ　目指す子ども像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅲ　研究の目標・・・ 1
Ⅳ　研究仮説 ・・・ 2
　1　基本仮説・・ 2
　2　作業仮説・・ 2
Ⅴ　研究構想図・・ 2
Ⅵ　研究内容
　1　絵本にについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　2　表現について・・ 3
　3　絵本からイメージした遊び・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
Ⅶ　保育実践
　1　検証保育実践計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
　2　検証保育　本時までの活動および幼児の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　3　検証保育　実践事例保育指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
　4　検証保育　本時の幼児の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
Ⅷ　研究の考察
　1　作業仮説（1）の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
　2　作業仮説（2）の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
Ⅸ　研究の成果と課題
　1　成果・・・ 21
　2　課題・・・ 22
おわりに・・・ 22
主な参考・引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

表現することを楽しむための援助の工夫

－ 絵本からイメージした遊びを通して －

浦添市立当山幼稚園　玉城　友美

【要　約】

本研究は，表現することを楽しむ幼児の育成を目指し，絵本からイメージした遊びに焦点をあて，幼児と絵本の関係性やそこから広がる遊びを楽しむための環境づくり，援助の工夫を試みたものである。

キーワード　□表現　□絵本　□環境づくり　□教師の援助　□相互交流

Ⅰ　テーマ設定理由

近年，幼児を取り巻く環境は，都市化や情報化が進み，テレビゲームや市販の玩具を使った遊びは，一人で楽しめるため他者とのかかわりが薄くなってきている。また，親の就労などにより，親子で触れ合う機会も減少している。幼児の思いを受け止める他者の存在や幼児自身も表現する場が減ってきていることにより『様々な思いを受け止め，表現する』という力が低下しているように感じる。

幼稚園教育要領解説でも，豊かな感性は「美しいもの，優れたもの，心を動かす出来事などに出会い，そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し，様々に表現することなどを通して養われるようにすること」と記されている。幼児が遊びや生活の中で感動したり，考えたり，心動かされるような体験を積み重ね，自分の感じたことや考えたことを表現する楽しさを感じさせることが求められている。

幼児は様々な表現をする。自分の思いや考えを絵画や製作にして伝えたり,言葉で伝えたり,歌や動きで伝えたりしている。心が動かされ，喜びを感じたときに，身体を動かして表現する子や絵で表現しようとする子もいる。教師は，幼児一人一人の感動や驚きを受け止め，それぞれの表現を認めていくことが大切だと考える。その受け止められた喜びが次の表現への意欲につながると考える。それらの表現活動の中で，幼児の感性や表現する力が養われ，創造性が豊かになっていくと捉える。幼児が何を感じているのかを大切に受けとめ，それを表現する意欲を育てることが必要だと考える。

クラスの幼児の実態として，友達と誘い合って好きな遊びを楽しんでいる子が多く，特に空き箱を使った製作遊びや，絵を描いたり粘土を使ったりしながらいろいろなものをつくって楽しんでいる。しかし中には，「できないから先生がつくって」や「難しくて描けない」といった声もある。それらは，描くことやつくることの経験が少ないことや，イメージすることが未熟であるための結果だと考える。

これまでの保育を振り返ると，幼児一人一人に寄り添い，思いや考えを受け止める保育を心がけてきた。しかし，幼児が描いたり，つくったりする活動において，イメージをふくらませるための言葉かけや環境づくり，感じたことや考えたことを具体化させるための援助が十分ではなかった。また，友達と一緒に描いたり，つくったりする遊びや活動を楽しめるような援助や働きかけに課題がある。

そこで，幼児の大好きな絵本や物語からイメージした遊びを通して，創造の世界を楽しみ，イメージを豊かにすることで，心が動かされ，その感動をいきいきと表現することを楽しむことができるのではないかと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　目指す子ども像

絵本から豊かなイメージをふくらませ，友達や教師と一緒に表現することを楽しむことができる幼児

Ⅲ　研究の目標

絵本からイメージしたつくって遊ぶ活動を通して，表現することを楽しむための環境づくりや援助の工夫を図る。

Ⅳ　研究仮説

1　基本仮説

絵本からイメージした遊びを通して，表現したくなるような環境の工夫，個に応じた援助を図り，友達や教師と相互に響き合う体験や活動を意図的に組み入れることで，自分なりのイメージをもって表現することの楽しさを感じることができるであろう。

2　作業仮説

(1) 絵本からイメージした遊びを楽しむ過程において，幼児の感じたことや考えたことに共感し，表現したくなるような環境づくりや個に応じた援助を行うことで，イメージを広げ表現する楽しさを感じることができるであろう。

(2) 絵本からイメージした遊びの中で，友達や教師と相互にかかわることのできる環境や援助を工夫することにより，表現する喜びを感じ，表現する意欲を高めていくことができるであろう。

Ⅴ　研究構想図

《 目 指 す 子ども像 》
絵本から豊かなイメージをふくらませ，友達や教師と一緒に
表現することを楽しむことができる幼児

《 研 究 テ ー マ 》
表現することを楽しむための援助の工夫
－　絵本からイメージした遊びを通して　－

《 研 究 の 目 標 》
絵本からイメージしたつくって遊ぶ活動を通して，表現することを楽しむための環境づくりや援助の工夫を図る。

《 研 究 仮 説 》

《 基 本 仮 説 》
絵本からイメージした遊びを通して，表現したくなるような環境の工夫，個に応じた援助を図り，友達や教師と相互に響き合う体験や活動を意図的に組み入れることで，自分なりのイメージをもって表現することの楽しさを感じることができるであろう。

《 作業仮説１ 》
絵本からイメージした遊びを楽しむ過程において，幼児の感じたことや考えたことに共感し，表現したくなるような環境づくりや個に応じた援助を行うことで，イメージを広げ表現する楽しさを感じることができるであろう。

《 作業仮説２ 》
絵本からイメージした遊びの中で，友達や教師と相互にかかわることのできる環境や援助を工夫することにより，表現する喜びを感じ，表現する意欲を高めていくことができるであろう。

《 研究内容 》
１．絵本について　２．表現について　３．絵本からイメージした遊び

保育実践・評価

研究のまとめ・成果と課題

Ⅵ　研究内容

1　絵本について

(1) 幼児にとって絵本とは

絵本は，絵によってその内容やストーリーが読み取れるようになっており，その特性は様々である。保育実践事典（西久保礼造（1995））では，およそ次のように大別される（表１）。

表１　絵本の分類　西久保(1995)

絵本の分類
○幼児の生活に密着し、幼児が自分自身の日常の経験や知識を通して共感できるもの ○幼児の心の中の夢を引き出し、空想の世界に誘うもの ○幼児に正確な知識を与え、科学的な芽生えを育てるもの

幼児はこれらの絵本を見ることによって，絵本の絵の色，大きさ，形，動きなどを知覚し,そこからイメージが想起される。ともに喜び，悲しみ，驚きなどの感情が喚起されて，様々な“おもい”をめぐらしたり，絵を追いながらページをめくり，それがどうなっていくのか楽しんだりするのである。この場合，教師の感情をこめた読みは，幼児の“おもい”に色どりを加えたり，方向性を与えたりすることになる。

(2) 絵本の役割

絵本は，子どもと大人で一緒に楽しむことができる。子どもは読み聞かせをしてもらうことで，愛情を感じ，読み手と聞き手の安定した信頼関係を結ぶことができる。また主人公に自分を重ね，豊かな想像力を養うことができる。人を思いやる気持ちや生きる力を育むことができると考える。

絵本の読み聞かせにおける役割を以下の５つにまとめる。

①　大好きな人と過ごすひととき

幼児は絵本そのものを楽しむとともに読み聞かせをしてくれる読み手の温かい声色，まなざしから愛情を感じ，楽しいひとときを過ごしている。教師は，幼児一人一人のことを思いながら絵本を選定し，温かい雰囲気づくりをしていくことが大切である。

②　絵本の世界を冒険している

読み聞かせをしてもらう幼児の目はきらきらと輝き，声色に耳を傾けながら絵本の世界に誘われている。話の内容によって喜怒哀楽の感情が刺激され，物語の主人公と一緒に一つの体験をしている。また自分の体験と本の内容や場面が一致したときには，リアルなイメージとして心にのこり，再認識することができる。

③　想像力が豊かになる

幼児は読み聞かせを通して想像力を豊かにしている。現実の世界と空想の世界を行き来しながら物語を楽しみ，心の葛藤や得体の知れない気持ちを体験している。その気持ちに自分の体験とを重ね，共感していくことで，ありのままの自分を受け止め，自信をつけていくことにつながっていく。

④　言葉の美しさや楽しさを知る

絵本の読み聞かせは豊かな言葉の体験でもある。絵本には，美しい絵と共にすてきな言葉があり，語彙力を豊かにしながら言語感覚を身につけることができる。読み聞かせを通して，美しい日本語を聴き，無意識に言葉を獲得していく。さらに文字に興味関心を持つきっかけにもなる。

⑤　人の気持ちを知り，思いやりの心が育つ

絵本で様々な登場人物の喜びや悲しみなどの気持ちに共感し，自分の体験に照らし合わせたり，未体験のことにも心寄り添ったりすることで他者への理解を深めていくことができる。

以上の５つのことから，幼児に絵本を読み聞かせることは，友達や教師と過ごす楽しいひとときの中で，物語の世界の中でで主人公と同じように冒険した気持ちになり，感性を働かせて想像力を豊かにすることができると考える。

2　表現について

(1) 幼児の表現とは

幼稚園教育要領領域「表現」では，「感じたことや考えたことを自分なりに表現すること

を通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする」と記されている。幼児は生活や遊びの中で，身近な環境とかかわりながら，不思議だなと思えるもの，きれいだなと感じるものと出会ったとき，心が動かされる。それを言葉を使ったり，身体を使ったり，絵に描いたりして表現している。これらを通して，感じること，考えること，イメージを広げていきながら感性と表現する力を養い,創造性を豊かにしていくと考える(図１)。

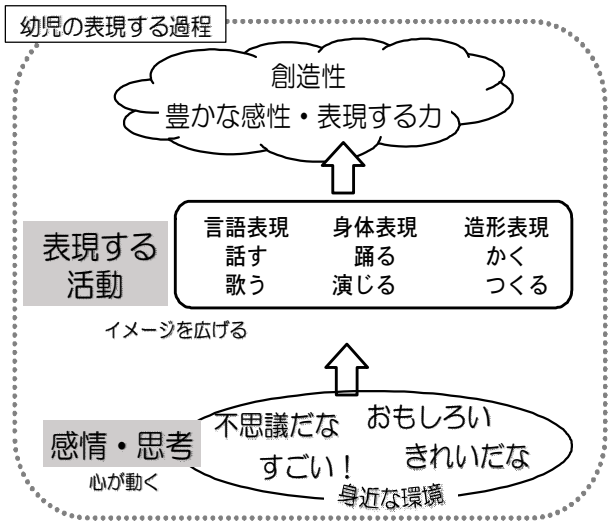


図1　幼児の表現する過程

(2) 表現を支える物的環境

幼児は安定した情緒の下で，周りの友達や教師と共に楽しく生活し，集団の中で安心して過ごすことで自分らしさを発揮し，様々な刺激を受けながら表現することができると考える。幼児の表現においては，うまく絵が描けたり，歌がうたえるかを考えるのではなく，表現したいという気持ちと表現する過程が大切であると考える。そのため日常で表現したいという気持ちがわいてくるような経験，その表現を支えるための環境（時間・空間・もの）が重要である。

① 時間

無藤隆（2007）は，「子どもの活動が時間で切断されずに主体性を発揮し，意欲的に生活することができるような十分な時間，自然な流れを保証することが大切である」と述べている。幼児一人一人が自分のしたいことを見つけ主体性を発揮しながら遊びや活動をしていくためには，試行錯誤しながらじっくりと取り組むことのできる時間を保証することが必要であると捉える。

② 空間

無藤隆（2007）は，「保育室は幼児にとって園生活における自分の中心的な居場所，拠点である。幼児自身がクラスの一員として安心して居られる居場所となるよう教師は配慮する。」と述べ，自由に創作，表現することができるようになるためには，「室内のどこに何があるのかがわかりやすく，子どもにとって使い勝手のよい空間」，「やや囲まれた空間で落ち着いてじっくりものを描いたり，つくったりすることができる空間」が必要であり，「製作したり，遊んだあとの片づけがしやすいように環境が整えられていること」も幼児の表現を意欲的にする上で大切である。

幼児の遊びや活動から表現したくなるような雰囲気づくりやスムーズに活動ができるような動線を考えた空間づくりを行うことで，幼児が遊びや活動に落ち着いて取り組むことができると考える。

③ もの

平田智久(2010)は表現のキーワードを「感じる」「考える」「行動する」と３つあげ，「人は様々な感覚器官を駆使して感じる。その人の興味関心が基になって考える。その考えに基づいて行動する」と述べている。表現することは，感じることが原点だと考える。　レイチェルカーソン(1996)は『センス・オブ・ワンダー』の中で，「子どもたちの世界は，いつも生き生きとして新鮮で美しく，驚きと感激に満ち溢れています」と述べ，「知ることは感じることの半分も重要ではない」と記している。幼児がきれいだな，ふしぎだな，なぜだろうと感じ，心動かす様々な「もの」に出会うことができるように環境づくりを工夫していく必要がある。

(3) 表現を支える人的環境

黒川建一(2007)は「だれかに受け止められ，だれかに伝わり，だれかに理解してもらい，だれかと共感し合う，そういう体験を繰り返しながら子どもたちの表現は育つ」と述べている。幼児は，周りの友達や教師に受け入れられ，認められることによって，自信をもって表現するようになる。受け止められた経験は，しだいに他者の表現も受け止められることになる。

① 友達と一緒に表現を楽しむ

幼児の遊びは，一人遊びから数人のグループ遊びに発展し，友達同士で共通意識をもちながら行う遊びを通して，お互いの気持ちを感じ，コミュニケーションを学んでいくとされる。表現遊びにおける友達とのかかわりを考えていくと，一人ではできない大きなものや複雑な物をつくることができ，活動をさらに高めることができると共に満足感を味わうことができる。また友達のつくっているものをつくりたくて「教えて」と言う子や，友達に「同じものをつくって」とつくってもらう子もいるだろう。さらに，友達のつくっているものを手がかりにしてもっといいものをつくる子もいるかもしれない。このような友達とのかかわりの中で，刺激を受けたり，認められたりすることで，仲間づくりや仲間意識を育むこともできる。このことから，遊びや活動の中で，一人遊びからグループ，クラス活動へと広げていけるような環境づくりや援助が必要であると考える。

② 表現を支える教師の役割

平田智久等(2007)は，「子どもの内面を理解し，寄り添う姿勢が大切」であり，自分を理解してもらえたことで，信頼感が生まれる。気持ちが安定してくることによって，様々なことに意欲的に取り組むようになり,感性を豊かにし，表現するようになると述べている。

幼児の様々な表現を育むために教師は，幼児の表現したいという気持ちや取り組む過程を大切にしなければならない。言葉にならない幼児の声を聴き取り，その声の実現を幼児自らが行うためにサポートしていくことが求められる。

花原幹夫(2009)は，「子どもが造形的表現を試みようとするきっかけは，対象となるものや素材に対する強い興味や関心によるところが大きい」と述べている。

幼児は，様々な素材に触れることで，いろいろな使い方をしたり，特性に気づいたり，試行錯誤しながら表現を楽しむことができると考える。そのため教師は幼児の遊びの姿や活動に合った素材や道具を用意したり，幼児の遊びが発展していけるような方法を工夫したりして幼児の表現を支えていくことが大切であると考える。

③ 幼児の内面を理解し，寄り添う援助

「援助」とは，幼児が環境にかかわって興味や関心をもちながら生み出していく活動の展開や，その中での一人一人の体験が，幼児の成長・発達を促すようにする教師の保育活動の総称である。幼児と生活や活動を共にしながら，幼児の心に寄り添い，体験していることが幼児の成長に意味があり充実していくように援助していく必要がある。教師の援助として，保育用語辞典（2001森上史郎）を参考に以下にまとめた（表２）。

表２　幼児に寄り添う教師の援助

援助	援助の方法
直接的な援助	活動に行き詰まったり，思いが実現できずに困っている際にヒントやアイディアを示したりやり方を教える。葛藤や挫折の体験で自信をなくしている際の励ましやなぐさめ，願いが実現した際の喜びへの共感等である。幼児の必要感に応じてなされることが重要である。
間接的な援助	環境を通しての幼児へのかかわりである。個々の幼児の興味や欲求，育とうとしていることを察知し，幼児の発達に願いを込めながら，幼児と環境の出会いを演出する教師の営みである。思わずかかわりたくなるような状況をつくり，見守る，一緒の場にいる，モデルとして人的環境となる等多様な援助がある。
心にとどく援助	個々の幼児をかけがえのない存在として受け入れ，幼児の感動を共有し，その心の動きや願いに沿って働きかける援助である。幼児一人一人の興味関心の持ち方が個別であることを理解し，肯定的で温かい関心を寄せることで実現される。
ふれる援助	幼児のからだにふれながら行う保育の営みである。幼児の手を握りながら話しかける，通りすがりに肩に手を置くといったさりげないふれ方がある。ふれる援助により，幼児は教師の存在を肌で感じ，心を安定させ自己の活動を広げるようになる。
見守る援助	幼児は自由に活動を展開する中で，相互にかかわり合い，状況をつくり，葛藤体験を乗りこえたり，自ら課題をもって挑んだりして生活を豊かにしていく。幼児自らが主体的に活動する姿に温かい心を寄せ，教師の指示を最小限にとどめ幼児一人一人の成長する様子を捉える援助である。

聴く援助	教師が幼児の立場に立って，一人一人の気持ちを丁寧に汲みとり応答する援助である。幼児は自分の思いや願いに耳を傾け心を込めて聴いてくれる大人の存在によって気持ちを安定させ心を開き，のびのびと自分を表現するようになる。このことで幼児との信頼関係ができ，幼児の切実な願いが見えたり，教師と幼児の思いのズレに気付かされたりする等，有効な効果がある。
認める援助	幼児が自分で努力したこと，工夫したこと，葛藤や挫折を乗り越えたことなどを温かく受け止め，ともに喜んだり励ましたりする援助である。幼児を褒める際，「がんばった」とか「よくできた」といった表面的な認め方ではなく，その幼児の生活への取り組みの経過を細かく捉え，どんなことを認めるのかを具体的に伝えることが必要である。また，教師の気持ちを幼児に伝える表現力も豊かにしていく努力が望まれる。
提案する援助	幼児と共に生活する中で，活動が行き詰まって停滞した際に教師が投げかけるヒントやより楽しく遊べるためのアイディア，友達との関係がうまくいかないで悩んでいる際に活路をみつける言葉かけ等，幼児の生活が充実し，より豊かになるための援助である。
投げかける援助	教師が教育的な意図を持ってある状況を作り出し，幼児に合わせたり，幼児が活動する場面でその遊びや活動がさらに充実していくために教師がアイディアや考えを提案する等の援助である。
関係づける援助	人とのかかわりを広げる，遊びと遊びをつなげる，他の場や状況の変化に着目させる等，幼児の生活や活動を豊かにしていくために教師が意図的に幼児同士の関係や場の関係，遊びの関係等をつなぐかかわりのことである。
ことばかけ	教師が幼児に対してことばを通して行う援助である。教師が幼児にことばをかけることによって，共感や励ましを受け信頼関係が結ばれる。アイディアや知識の提供を受ける，漠然とした思いが明確になる，イメージが豊かにふくらむ，他との関係が広がる等の教育的な作用がある。

保育用語辞典(2001)森上史郎

(4) 表現を楽しむ過程

幼児の表現を楽しむ過程として「感じる」→「考える」→「行動する」として以下のように捉える（図２）。

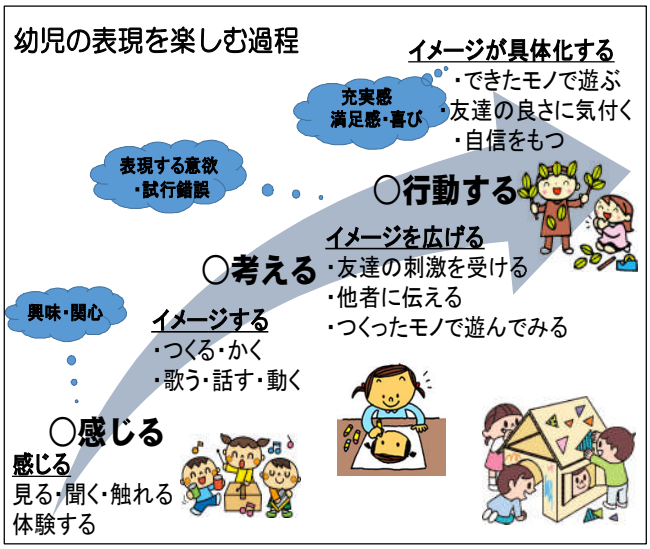


図２　表現を楽しむ過程

平田智久（2010）は，表現のキーワードを「感じる」，「考える」，「行動する」とし，人はみな様々な感覚器官を駆使して“感じる”，その興味関心が基となり“考える”，その考えに基づいて“行動する”ことを表現であると述べている。

ア　感じる

幼児は，遊びや活動，生活の中で，興味関心によって無意識のうちに諸感覚が反応する。“おもしろい”，“なんだろう”“やってみたい”と心が動かされる。心が動かされることにより，対象となるものにかかわろうとする。

イ　考える

幼児が興味関心をもった対象となるものとかかわる中で，“こんなふうにしてみたい”などと様々に考える。

ウ　行動する

考えたイメージを具体化するためにつくったり，描いたりする等，試したり工夫したりしながら行動する。

①　表現を楽しむ過程における教師の援助

教師は，幼児が遊びや活動の中で，様々なことを感じ，興味関心をもってかかわり，考えたことを表現したくなるような環境を整え，より表現する楽しさを感じることができるように援助していくことが必要である。表現を楽しむ過程の中で幼児が意欲を発揮しようとする上で大切な教師の具体的な援助について以下にまとめる。

表３　表現を楽しむ過程における教師の援助

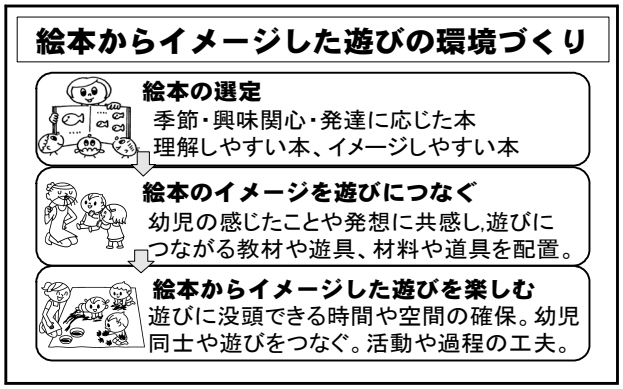
感じる	○感じる	・幼児が“やってみたい”，“面白い”と思えるようなものや出来事，体験，教材・教具などを意図的に構成する。 ・幼児が感じたことや考えたことに共感する。また，幼児同士や教師と相互に感動を共有する。 ・幼児が感じたことを表現しようとする姿を見守る。必要に応じて幼児が表現しようとしていることを教師が言葉にすることで，具体的なイメージがもてるようにする。
考える	○イメージする	・遊びのイメージがふくらむような言葉かけをする。 ・他の幼児の遊びや活動の姿に目を向けさせ，イメージが広がるようにする。 ・教師も一緒に遊んだり，活動しながら，必要に応じてアイディアやヒントを与えたり，モデルになったりする。 ・使う材料や道具を幼児と一緒に考えたり，遊びや活動が発展できると予想される材料や道具を意図的に計画的に提供する。
考える 行動する	○イメージを広げる	・対象とじっくりかかわることができるように時間や場の設定をする。 ・遊びや活動が停滞しているときには，アイディアを提供したり，幼児同士をつないだりする。 ・試行錯誤して活動する姿を見守り，その姿を具体的に伝えたりして認める。 ・友達の遊びや表現したモノをクラスのみんなに紹介し，面白さや楽しさを共有することで，さらにイメージが広がるようにする。
行動する	○イメージが具体化する	・製作した過程やできたモノの工夫したところや楽しんでいる姿を受け止め，認める。それを自信につなげていく。 ・できたモノをみんなに見せたい，伝えたい気持ちを受け止め認める。発表する場を設定する。 ・友達の良さに気付かせたり，友達同士認め合う姿を受け止める。

３　絵本からイメージした遊び

(1) 絵本からイメージした遊びの環境づくり

幼児は自分の憧れのものになったり，物を見立てたりして空想の世界を楽しんでいる。そこで，絵本を通して，教師や友達と一緒につくったり，つくったモノで遊んだりすることを楽しむために絵本からイメージした遊びの環境づくりの工夫を図る（表４）。

表4絵本からイメージした遊びの環境づくり



①　絵本の選定

季節や遊び，活動に考慮し，幼児の発達に応じた理解しやすい本，イメージが広がりやすい本を選定する（表５）。

表5　絵本選びのポイント 代田知子(2001)

絵本選びのポイント
①ストーリーや内容がわかりやすい
②ストーリーのテンポが良くおもしろい
③リズムがある美しい日本語
④繰り返しがうまく生かされている
⑤子どもに理解されやすい魅力ある絵
⑥絵を追うだけでストーリーがわかる
⑦お話と絵の雰囲気が調和している
⑧幼児に理解しやすく、共感することができる

幼児は絵本が好きであるが，どんな本でもいいとは限らない。教師がこの本が好きだからと選んでも，4月や5月の時期に長い物語の本を読み聞かせても関心をもたず，集中できないこともあるだろう。幼児が園庭で虫探しを楽しんでいる時期に昆虫が登場する絵本を読み聞かせると目がきらきらと輝き，絵の細かい部分も見逃さずに捉えていることもある。心を動かされた絵本に友達と輪になって，会話をしながら楽しんでいる姿もよく見かける光景である。

幼児の遊びや生活の場面から興味関心のあることや心の内面を読み取り，絵本を選定することが大切であると考える。

② 絵本のイメージを遊びにつなぐ

木内かつ(2014)は「【絵本あそび】（名詞）子どもが絵本を読んでもらって楽しかった気持ちを，体を使ったり，物をつくったり，絵を描いたりする遊びを通じて表現すること」と述べている。絵本からイメージした遊びを楽しむことで，絵本の世界をさらに楽しむことができるように，イメージしたことを大切にしながら，遊びや活動を設定していくことが必要だと考える。

③ 絵本からイメージした遊びを楽しむ

幼児が絵本からイメージした遊びを楽しむために，絵本の読み聞かせから「イメージを広げる」，「友達と共通のイメージをもつ」，「友達と一緒に遊びを楽しむ」ことを意識していくことで，絵本からイメージを広げ，絵本の世界を楽しむことができると考える。

ア イメージを広げる

イメージを引き出すたすための工夫として以下のことが考えられる（表６）。

表6 イメージを引き出す工夫

①幼児のイメージしたことが具体的になるようにクイズ遊びをする。 ②どのようなイメージをもっているのかをより具体的にするために描いたり、つくったりする遊びをする。 ③グループで話し合う場を設け，友達の話をきいて共通のイメージがもてるようにする。 ④十分に遊びに取り組むことのできる時間・空間を確保する。

絵本のクイズ遊びから感じたり，考えたことを自分なりのイメージがもてるようにしていく。そのイメージしたことが基となって，絵を描いたり，つくったりした表現する遊びや活動につながっていくと考える。その際，遊びや活動の中で，対象となるものと十分にかかわることができるような「時間」と，落ち着いた雰囲気で取り組めるような「空間」の確保が必要である。また，教師も一緒に幼児と触れあい,遊びや活動に参加することで，一人一人を理解し，柔軟な対応ができる。そこで，楽しいという気持ちを共有していくことが大切である。

イ 友達と共通のイメージをもつ

自分なりのイメージをもって表現することが楽しめるようになると，友達とそれぞれが感じたことや考えたことを出し合い，その遊びや面白さや楽しさに気付いたり，刺激を受けたりして友達とかかわって遊べるようになる。

クラスで遊びや活動の面白さや，描いたりつくったりした作品を紹介するを場を設定し，共有することで，新しい考えや遊びの面白さを知り，さらにイメージがふくらみ，遊びが展開していけるようになると考える。その際，教師は，幼児のイメージした発想や言葉を受け止めながら，幼児同士をつなぐ援助をしていくことも必要である。また，幼児のイメージしたことを実現するための材料や道具なども，状況に応じて適切にに配置することも大切である。

ウ 友達と遊びを楽しむ

遊びを他の幼児と一緒にすすめていくことで,一人では味わえない面白さや楽しさがある。友達同士それぞれの役割を決めたり，思いや考えを伝え合ったりして一つの遊びや目的に向かって力を合わせ，達成できたときに満足感や達成感といった喜びが生まれる。このような遊びを設定し，幼児一人一人が友達とかかわりながらイメージを広げ表現することを楽しめるようにすることが大切である。その際に留意していくこととして，教師が一方的に全ての設定やルールを決めて押しつけるのではなく，遊びの導入の場面から幼児と話し合い，どのようにすすめていくのか，どういうモノをつくりたいのか等，幼児が自分たちで考えて行動できる余地をつくっておくことが大切である。幼児同士やクラス全体としての活動として以下が考えられる。

絵本からイメージした共同遊びとして

〇紙芝居づくり　〇大型絵本づくり

〇劇遊び　〇お店屋さんごっこ　など

このような活動を通して幼児同士がかかわって遊ぶ中で,ダイナミックな表現を楽しんだり，それぞれの持ち味を発揮しながら友達の良さを認め合い，表現遊びの楽しさを味わうことができると考える。

Ⅶ　保育実践

1　検証保育計画

検証保育実践計画を以下のようにした。

	日程	題材名	ねらい	内容
1	10/16 （金）	アンケート調査	○幼児の実態を調査し，保育実践の指標とする。	・幼児への聞き取り調査①
2	12/8 （火）	どんなお話かな？	○絵本やえほんクイズからイメージをふくらませてお話の世界を楽しむ。	・『ぽんたのじどうはんばいき』のスライド絵本を見る。 ・感じたことや考えたことを発表する。 ・えほんクイズをしながら登場人物や販売機から出てくるものを考えて発表する。
3	12/11 （金）	ペープサートで遊ぼう！	○ペープサートからイメージをふくらませてお話の世界を楽しむ	・『ぽんたのじどうはんばいき』のペープサートを見たり，参加したりする。 ・ペープサートを使って自由に表現遊びを楽しむ。
4	12/14 （月）	はんばいきをつくってみよう①	○身近な素材を使って製作することを楽しむ。 ○ペープサートからイメージをふくらませてお話の世界を楽しむ。	・身近にあるものを使って販売機をつくる。 ・ペープサートを使って自由に表現遊びを楽しむ。 ・製作に必要な材料を考える。
5	12/15 （火）	はんばいきをつくってみよう②	○自分でイメージしたものを製作することを楽しむ。 ○友達や教師と一緒にイメージをふくらませて表現を楽しむ。	・自分のイメージした材料を使って販売機製作の続きをする。 ・販売機から出てくるモノを製作する。 ・販売機をつくって友達や教師と遊んだり，つくったりする。
6	12/16 （水）	はんばいきをつくってみよう③	○友達や教師とじどうはんばいきを使ってやりとりをしながらイメージを広げてごっこ遊びを楽しみ，製作を楽しむ。	・様々な素材を使って販売機や出てくる モノをつくる。 ・友達のつくったモノを見たり，販売機で遊んだりして製作をする。
7	12/17 （木）	動物バスケットをしよう	○森の動物になってゲームを楽しむ。	・好きな動物を選ぶ。 ・好きな動物になって動物バスケットをする。
8	12/21 （月）	じどうはんばいきごっこをしよう①	○自分でイメージしたものを製作することを楽しむ。 ○友達や教師と一緒にイメージをふくらませて表現を楽しむ。	・様々な素材を使って，イメージを広げながら販売機や出てくるモノを製作する。 ・お面の色塗りをする。
9 本時	12/22 （火）	じどうはんばいきごっこをしよう②	○自分でイメージしたものを製作することを楽しむ。 ○友達や教師と一緒にイメージをふくらませて表現を楽しむ。	・様々な素材を使って，イメージを広げながら販売機や出てくるモノを製作をする。 ・友達や教師と販売機やさんごっこをする。
10	1/12 （火）	じどうはんばいきやさんをしよう	○自分でつくった販売機や出てくるモノを使って販売機やさんのやりとりを楽しむ。	・年中さんを招いて販売機やさんごっこをする。

2　本時までの活動および幼児の姿

2. どんなお話かな？　～お話を知ろう～

スライドを使った読み聞かせは，いつもと違い新鮮だったようで喜んで見ていた。細かい絵にもよく気がついていた。

えほんクイズはすぐに答えることのできる簡単なクイズを出した。ほとんどの子が手を挙げてクイズを楽しんでいた。

いつもは恥ずかしがって発表に消極的な子も手を挙げて発表することができた。

表現を楽しむ過程：感じる・興味関心をもつ・イメージする

次の活動へつなぐ環境づくり・援助

○絵本に興味を示し，お話の世界に誘うことができた。次はペープサートを使ってお話の世界を表現して楽しむことでイメージが広がるようにしよう。

○スライドの読み聞かせの中で，「こんなはんばいきがあったらいいな」という声があった。幼児の感じたことや考えたことを受け止めながらお話の世界で遊んでみよう。

3. お話の世界を楽しむ！　～ペープサートで遊ぼう～

教師の演じるペープサートを喜んで見ていた。「次はさるくんだよ」，「しばらくおまちください出さないの？」と一緒に参加して楽しんでいた。

ぽんたとさるくんを会話させたり，販売機から出てくるところを再現したりして楽しんでいた。

他の子が販売機づくりを始める中，ペープサートを楽しんでいる3人。友達のつくっている所に行き表現遊びをしていた。

表現を楽しむ過程：イメージをもつ・イメージを広げる

次の活動へつなぐ環境づくり・援助

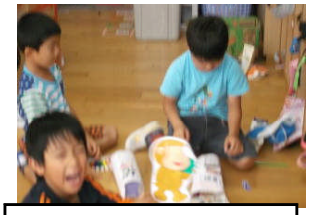
○ペープサートを見たり，遊んだりしてその子なりのお話のイメージを持つことができた。どんなイメージを持っているのか，どんな遊びに発展していくのか見守ってみよう。

○教師のつくったペープサートをお手本にして販売機をつくり始める子が出てきた。幼児のイメージを引き出すためにあえて材料は準備せず，考えさせてみよう。

4. じどうはんばいきをつくってみよう！　～身近にある材料から～

身近に合った牛乳パックと画用紙を使って製作している。

教師のつくったペープサートや絵本を見ながら販売機をつくり始めた。1人で製作する子，2，3人のグループも見られた。



ペープサートで遊びながらつくる姿も見られた。

表現を楽しむ過程：イメージをもつ・イメージを広げる

次の活動へつなぐ環境づくり・援助

○クラスのほとんどの子が牛乳パックやティッシュの箱など身近にあるものを使って販売機づくりをはじめた。小さい箱は個人で，段ボールは数名の子が一緒に製作している。製作へのかかわりが薄い子や友達とのかかわりに消極的な子が友達と一緒につくることを楽しめるようにしていこう。

○イメージをふくらませながら販売機づくりがはじまる中，つくりたい気持ちはあるがイメージがもてない子が数名見られる。どんなモノをつくりたいのか，どんな材料を使うのか一緒に考えながら製作が楽しめるようにしていこう。

5. じどうはんばいきをつくってみよう！～イメージしながら材料を選ぶ～

様々な素材を見て，触れて，大きさや材質を確かめながら自分のイメージに合った材料を選んでいた。

たくさんの材料を見て，材料からこんなモノがつくれそうとイメージをふくらませて選ぶ子の姿も見られた。

幼児のイメージを引き出すためにどんなモノをつくりたいのか？どんな材料を使うのか？　探りながらかかわっていった。

表現を楽しむ過程：イメージする・イメージをふくらませる

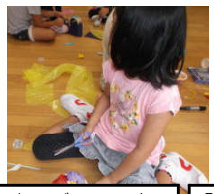
次の活動へつなぐ環境づくり・援助

○自分のイメージした素材，たくさんの素材を見てイメージしながら材料を選ぶことができた。幼児が製作する中で対話をしながらイメージしたことが具体的になるようにしよう。
○幼児と製作やごっこ遊びを楽しむ中で，教師や友達のアイディアや発想に気づけるような，はたらきかけをすることで，互いに刺激を受けながらさらに表現する意欲が持てるようにしていこう。
○製作遊びに夢中になり継続しているので，十分に遊び込むための時間と集中できる場の雰囲気づくりをしていこう。

6. じどうはんばいきをつくってみよう！～試行錯誤しながら～

画用紙を細長く切って沖縄そばをつくる男の子。長くねじれたそばをつくりたいがカップに収まらない。短く切ったり，長い紙をくしゃくしゃにしてみたり･･･

アイスクリームをつくる女の子たち。ジュースをつくった子が花紙を使った経験から新聞紙を丸めて包んでアイスクリームができた。隣の子を見ながらつくったり，幼児同士のアイディアが伝わっていく。



「ここを切って出てくるところをつくろう。」「倒れないようにテープでくっつけよう。」と試行錯誤を繰り返しイメージを広げながら楽しんでいた。

表現を楽しむ過程：イメージを表現する・イメージをふくらませる

次の活動へつなぐ環境づくり・援助

○販売機や出てくるモノが形になり，幼児のイメージが具体化してきた。みんなの前で発表し紹介する場を設け，認められる経験を自信につなげたり，友達のつくったモノを見て“おもしろい”，“やってみよう”とさらに表現する気持ちを高めていこう。
○つくったモノでごっこ遊びを楽しんでほしい。つくったモノを紹介するだけでなく，販売機から出てくるところを再現して見せてみよう。
○絵本の動物になって遊ぶことで，ごっこ遊びにつなげいきたい。ゲームをしたり，お面をつくる材料も準備してみよう。

5～9. つくったモノを伝える･認め合う　～期待を持つ～

「新聞紙でドーナツをつくりました」，「○○さんと一緒にロボットをつくりました」と発表すると次の活動で紹介されたモノをつくる子が出てきた。

「そばのつくり方教えて」と友達に教えてもらう姿も見られた。

友達のつくっているのを見て，帽子をつくる子も出てきた。

表現を楽しむ過程：他者に伝える・刺激を受ける・認められ自信になる

次の活動へつなぐ環境づくり・援助

○できたモノを発表し紹介することで，同じモノをつくったり，「つくり方教えて」と教え合ったり，“おもしろそう”と協力しながら一緒につくる姿がある。イメージが広がらない子や遊びが停滞している子などをイメージを広げながら夢中になっている子とつなぐようにしよう。
○製作に夢中になっている。ごっこ遊びにはなかなか発展しないが幼児の“つくりたい”という気持ちを大切にしよう。
○販売機から出てくるモノも形になってきた。ごっこ遊びができるといいな。販売機を使ってのやりとりを見せてみよう。

3　検証保育　実践事例

保育指導案（幼稚園教育）

平成27年　12月22日（火）9:00～10:00

すみれ組　男児16名　女児12名　計26名

玉城　友美

(1)　題材名　『ぽんたの森で遊ぼう』

(2)　ねらい

絵本からイメージしたものを製作したり，つくった物で遊んだりして表現することを楽しむ。

(3)　題材について

①　学級の幼児の姿

明るく活発な子が多く，友達同士誘い合って自分の好きな遊びをみつけ楽しむことができる。特に空き箱や新聞紙，チラシなどを使って製作遊びを好む子の姿がよく見られ，時間をみつけてはロボットや飛行機など様々なものをつくって楽しんでいる。

これまでの活動を通して，絵本からイメージした遊びや活動において，えほんクイズから絵本の内容を理解しようとしたり，しかけ絵本づくりを通して絵を描くことを楽しむ姿が見られるようになってきた。しかし中には，絵を描いたり，製作する活動の場面で，イメージが持てず，取り組むまでに時間がかかってしまう子が4名いる。また，「こんなものをつくりたい」とイメージはできているが，どのように表現すればいいのかわからず「先生一緒につくろう」，「これどうするの？」と自分で考えたり工夫したりして製作することを楽しむことができない子の姿も見られる。

②　題材として取り上げた理由

本時は，絵本からイメージしたことを製作したり，表現したりして楽しむことを目標にしている。そこで，幼児がイメージしやすくわかりやすい絵本，さらに遊びに発展していきやすい絵本の選定を行った。今回，取り上げる絵本「ぽんたのじどうはんばいき」は，葉っぱを入れると何でもほしいものが出てくる自動販売機をたぬきのぽんたが段ボールでつくって，森の動物たちのほしいものを出してあげるという幼児にとって魅力的なお話である。

友達や教師と一緒にイメージをふくらませながら自動販売機をつくったり，「こんなものが出てきたらいいな」と出てくるものを考えて製作遊びをしたり，森の動物になりきって遊んだりすることで，絵本の世界をさらに楽しめるのではないかと考える。友達や教師と一緒にイメージの世界で遊ぶことで一緒につくる楽しさや面白さを感じ，表現することを楽しむことができるのではないかと考え本題材を取り上げた。

(4) 仮説

○友達や教師と一緒にかかわりながら，イメージしたことをつくったり，遊んだりすることにより，表現する楽しさを感じ，表現する意欲が高まるであろう。

4 検証保育指導案

(1)　本時の活動

「じどうはんばいきごっこをしよう」

(2)　本時のねらい

・イメージしたものを製作することを楽しむ。

・友達や教師と一緒にイメージをふくらませて表現を楽しむ。

(3)　活動の流れ

時間	○活動内容・予想される幼児の姿	☆教師の援助　◎環境構成
８：５０	○集まり ・教師の周りに集まる ・教師と一緒に手遊びをする ・教師の話を聞く	◎すぐに活動が始められるように材料や道具なを配置し，環境づくりをしておく。 ☆手遊びやゲームをして楽しく集まりができるように雰囲気づくりをする。 ☆集まりになかなか参加しようとしない子が２名予想されるため，集まりの前に声をかけてスムーズに集まりができるようにする。
９：００	○本日の活動内容や約束を確認する。 ・教師の話を聞く ・前日までの遊びの様子を話す ・道具の使い方や材料の使い方の約束を確認する。	☆前日までに製作したものや遊びの様子を紹介し，確認しながら，期待をもって活動が始められるようにする。 ☆９:50になったら集まることを知らせる。
	約束 ・はさみの使い方に気を付ける。 ・クレヨンやマーカーなど使った道具は片付けてから次の道具を使う。 ・材料は使うものだけを取り，大切に使う。	
９：１０	○遊びの準備をする。 ・使う道具や材料を選ぶ。 ・遊ぶ場所を自分たちで決める。	☆幼児との対話から引き出した材料や遊びの展開に合わせた材料を用意し，幼児のイメージが具体的になるようにする。 ◎各グループ落ち着いて活動に取り組めるように活動に合わせて場所を誘導したりする。
	○製作遊びをする。 ・自動販売機製作の続きをする。 ・食べ物やアクセサリーをつくる。 ・友達や教師との会話ややりとりから出たモノをつくる。 ・つくった自動販売機でごっこ遊びをする。 ・友達のつくっている姿から刺激を受け，真似をしたり，工夫したりする。 ・友達と一緒にアイディアを出し合いながら製作をする。	☆製作する際，道具や材料の使い方を見守り，安全面に十分配慮する。危険なときは知らせる。 ☆幼児が自分でイメージしたものが自分の力で製作できるように活動の姿を見守り，必要に応じて声かけや援助をしていく。 ☆段ボールを切るなど幼児にとって難しい状況になったときに必要に応じて個に応じた援助をする。 ☆幼児がいろいろな材料を使って試行錯誤している姿を見守り，必要に応じて声をかける。 ☆個別に援助が必要な子に対して，製作を楽しんでいる姿を見守り，危険やトラブルになりそうなときに援助できるようにする。 ☆幼児と対話をしながらイメージを引き出し，アイディアを提供したりして，つくる楽しさやできた喜びが味わえるようにする。
	○表現遊びをする。 ・動物に変身して好きな販売機で遊ぶ。 ・自動販売機やさんになったり，動物になったりして遊ぶ。 ・友達や教師と一緒にごっこ遊びをする中で表現することを楽しむ。 ・ごっこ遊びを楽しむ中で，イメージした必要なものをつくったりして遊びを広げていく。	◎つくったモノでごっこ遊びが楽しめるように保育室前方に机を準備しておく。遊びや幼児の動きに合わせて環境を再構成していく。 ☆できたモノで一緒に遊びを楽しむ中で工夫した所や面白い所を認めていくことで，表現する意欲を高めたり，イメージをふくらませて遊べるようにする。 ☆友達とごっこ遊びのやりとりを楽しんでいる姿を捉え，次の活動や遊びへ発展していくと予想される表現を受け止めていく。

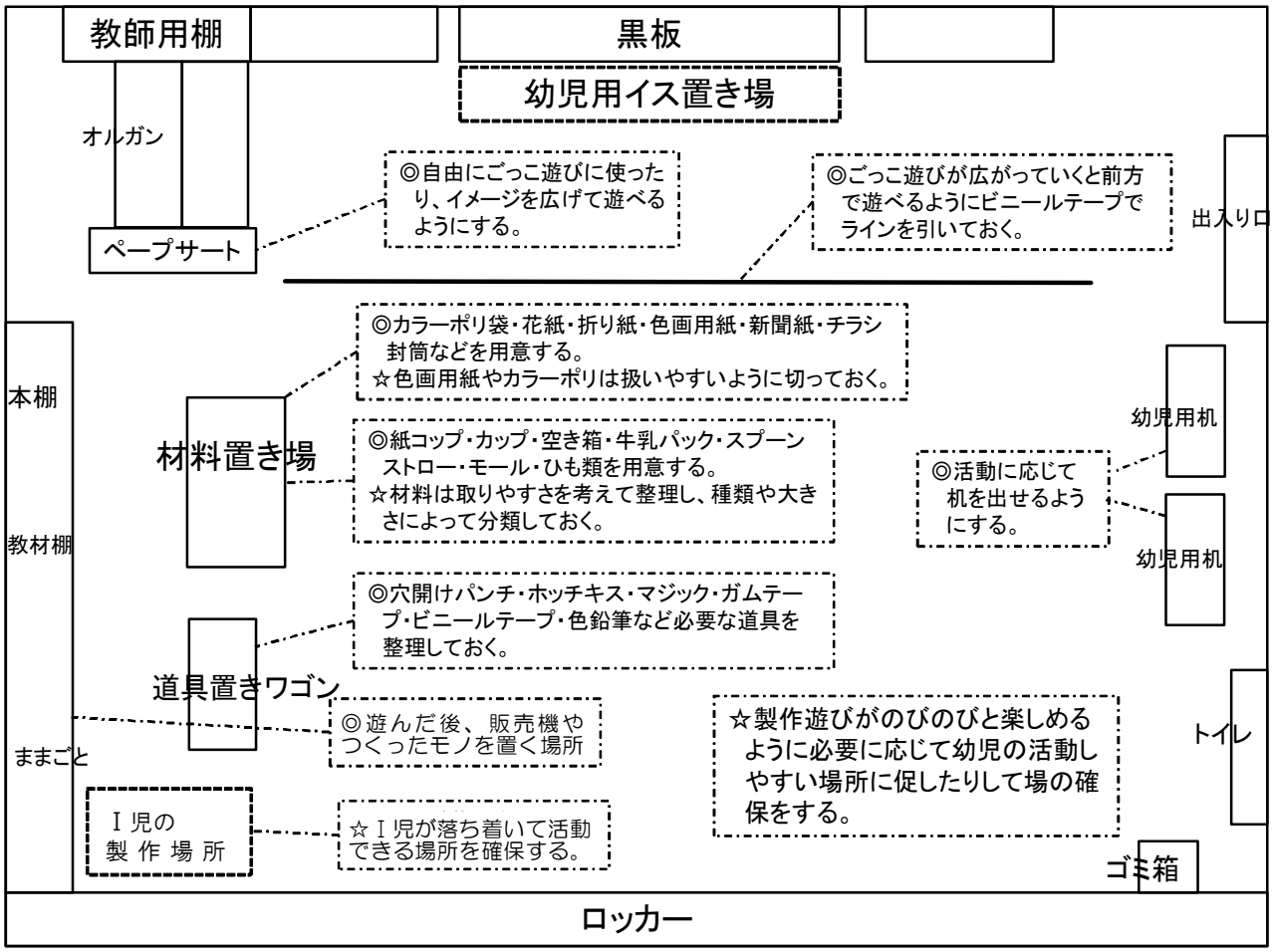
９：４５ ９：５０	○集まりの前に使った道具や材料をひとまとめにする。 ○本時の振り返り ・今日楽しかったことや面白かったことを発表する。 ・友達の話を聞く。 ・教師の話を聞く。	☆集まりがスムーズに行えるように事前に声をかけて使った道具や材料をひとまとめにできるようにする。 ☆本時の幼児の感想から楽しかったことに共感し，認めていくことでみんなで遊びを楽しむことができたことが感じられるようにする。 ☆次回も遊びや製作に期待をもって取り組めるようにする。
評価の視点	○幼児一人一人が活動に喜んで参加し，それぞれのイメージをもって製作を楽しんでいたか。 ○友達や教師と一緒に表現遊びを楽しんでいたか。	

5　表現する意欲を捉える指標

幼児の表現活動へのかかわりにおける意欲について4段階で捉える。

A　イメージを広げ試行錯誤しながら表現する。	B　イメージしたモノを表現しようとする。	C　興味を示し，やってみようとする。	D　傍観するかかわろうとしない
・試行錯誤を繰り返しながらイメージを広げ表現する。 ・友達とアイディアを出し合いイメージを広げながら表現を楽しむ。	・イメージをもって遊びや活動を楽しむ。 ・教師や友達の遊びや活動にも目を向け模倣しながら表現する。	・教師や友達に誘われて自分なりに遊びや活動に参加する。 ・遊びや活動に興味を示し取り組もうとする。	・初めての遊びや活動に戸惑いがある。 ・他児の遊びや活動を傍観している。 ・表現する遊びや活動に苦手意識がある。

6　環境構成の図



7　本時の幼児の姿

○活動の前に集まってはんばいきごっこをクラスみんなで共有する

自分のつくった販売機を使ってはんばいきごっこ。発想豊かな幼児のはんばいきからはおもしろいモノがたくさん出てきた。

○製作あそびスタート！！

何を使ってつくるのかイメージしながら材料を選んでいるため無駄にせず大切に使う姿が見られた。

友達とはんばいきごっこをする中で，ほしいと言われたモノをつくる→はんばいきから出すというやりとりの面白さを感じ，イメージを広げてつくったり遊んだりして楽しんでいた。

○イメージする・試行錯誤するを繰り返しながら製作を楽しむ

雨が降ったときのためにビニールのテントもついている。右の幼児が帽子をつくり，左の幼児は帽子かけを製作中。

ハッピーセットを製作する女の子グループ。4人でアイディアを出し合ってつくることを楽しんでいた。

できた販売機

毎日進化する販売機。「お母さんの好きな○○もあるよ」「ここはベイマックスみたいだよ」とイメージが広がっている。

○じどうはんばいきごっこを楽しむ

はんばいきやさんがしたいけど･･･お客さんこないかな～。呼び込みはちょっとはずかしいなと言う女の子。

園長先生に
声をかけたよ

勇気を出して園長先生に声をかけた女の子。「ジュースおいしかったです」と言われ満足そうにしていた。

「今ならハッピーセットサービス中です」とお客さんを呼ぶ幼児。だんだんお客さんが集まってきた。

製作が大好きなG児はカメラを作っていた。「写真も出てくるの？」と教師の声に絵を描いて写真も出てくるカメラができた。葉っぱを入れると写真を撮ってくれる販売機やさんができた。他にも赤い手袋が出てきた。

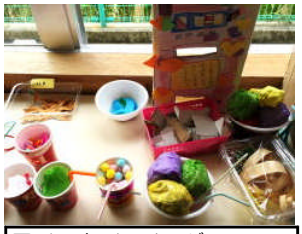
○今日の活動の振り返りでおもしろかったことを共有し，次の活動へつなぐ

H児のつくってきた販売機は大きくていろいろなものが装備されていた。H児の製作している一角へみんなで行ってお話をきいた。一生懸命つくっている販売機をクラスみんなに紹介し拍手をもらった１児はさらに製作意欲を高め，このあとも製作あそびを楽しんでいる。

仲良し女の子グループはハッピーセットをつくったことを発表していた。いつもは前に出ることに消極的だが今日は自信をもって発表することができた。

子どもたちの作品

ハッピーセットはこぼれないようにラップを使用。



アイスクリーム，ジュース，沖縄そば，ポテトなどいろいろなモノができた。

販売機は毎回，イメージがふくらみ進化していた。ストローと花紙を使って囲いを使ってポンタが隠れる場所をつくるなど教師の思いもしないことを考えて製作していた。

検証保育後の様子

年中さんを招いてはんばいきごっこを楽しみました！「葉っぱを入れてほしいものをいってね！」と優しく教えたり，「お客さんがいっぱいで食べ物が足りないからまたつくらないと～」とお客さんがたくさん来てくれたことに大満足の様子。

自動販売機ごっこは生活発表会につながった。販売機のボタンを押すと，わらべうたが流れ，歌ったり，遊んだりすることができるという劇遊びを楽しんでいた。

Ⅷ　研究の考察

本研究では，絵本からイメージした遊びを楽しむ中で，幼児の感じたことや発想に共感したり，表現したくなるような環境づくりや援助の工夫を図ることで表現することを楽しむことができたかを，幼児の姿や変容，聞き取り調査から検証していく。

1　作業仮説(1)の検証

> 絵本からイメージした遊びを楽しむ過程において，幼児の感じたことや考えたことに共感し，表現したくなるような環境づくりや個に応じた援助を行うことで，イメージを広げ表現する楽しさを感じることができるであろう。

(1) 共感し受容する援助

①　手立て

幼児一人一人の感じたことや発想を受け止め，幼児と同じ目線で向き合い，自分のイメージしたことを安心して表現できる援助を行った。

②　結果

活動がはじまった当初は，教師の指示を待ったり，友達の様子を見ていた幼児も，次第に自分のイメージしたモノをつくりのびのびと表現するようになった（図３）。

図3　製作を楽しむ姿

③　考察

幼児が感じたことや考えたことを教師に伝えようとする際に，幼児の思いに共感する言葉かけを行った。そのような言葉かけでのびのびと表現することができ，つくること，つくったモノで遊ぶことなどの表現を楽しむことができた。

また，教師主導の考えではなく，幼児から出た言葉や，遊んでいる姿から言葉にならない思いや考えを読み取り，対話していくことで，幼児が安心して自分の感じたことや考えたことを表現しながら遊ぶことができた。また，自分のイメージをもちながら，表現を楽しむことができたと思われる。

このことから幼児の感じたことや思いに共感すること，受けとめる言葉かけや幼児に考えさせる言葉かけなどの大切さに改めて気付くことができた。

(2) 幼児の興味に沿った絵本の選定

①　手立て

幼児の興味に沿った絵本を選定し，教材の工夫を図った（図４）。

図4　絵本・教材の工夫

②　結果

スライドを使った読み聞かせを喜んで見ていた。絵本の内容にも興味を示し，「こんな販売機つくりたい」との声を引き出すことができた。

ペープサートで登場する動物を会話させたり，販売機のやりとりを再現したり，お話の世界をイメージしながらごっこ遊びを楽しんでいた（図５）。

図5　ペープサートで遊ぶ姿

販売機をつくっている友達とペープサートの動物を使ってやりとりをする中で，イメージがふくらみ，さらに遊びを発展させて楽しんでいた。

③　考察

遊びに発展していきそうな絵本の読み聞かせを行い，幼児が扱いやすいペープサートも自由に遊べるよう環境づくりをしたことで，

絵本では味わえない，登場する動物を動かしながら友達とやりとりを楽しむことができた。結果，クラスみんなが絵本の話に興味をもち，ごっこ遊びや製作遊びに発展し，自分なりにイメージしながら表現することを楽しむことができたと思われる。

教師が用意したペープサートの大きさは幼児でも扱いやすいことを考慮したものだった。そのため幼児は“この販売機と同じモノをつくりたい”と感じ，同じような販売機をつくる子が多かった。それにより，出てくるモノが紙に描いたモノであったり，販売機が小さくなったりする等，幼児なりの発想が出てくるまでに時間がかかっていた。

ペープサートを使うことで，イメージしながら表現を楽しむことはできたが，それがモデルとなりイメージが固まってしまう結果も見られた。幼児の遊びがどう展開していくのか見通しをもちながら環境を変えたり，教材を工夫していく必要性を感じた。

(3) 表現したくなるような環境づくり

① 手立て

幼児のイメージに合わせて，様々な素材や道具を使って製作遊びが楽しめるようにした（表７）。

表７　使った素材・道具

製作遊びに使った材料・道具

《紙類》
色画用紙・折り紙・新聞紙・チラシ・花紙・習字紙・紙皿
段ボール・封筒・包装紙・梱包用スチロール紙
《ビニール類》
カラーポリ袋・梱包用ビニール・カラーセロハン
《容器類》
牛乳パック・空き箱・ペットボトル（キャップも含む）
カップ・紙コップ・空き箱・卵パック・スチロールトレー
《ひも類》
ビニールひも・毛糸・麻ひも
《その他》
カラー輪ゴム・ビーズ・スパンコール・割り箸・スプーン・ラップ
ストロー・モール（長い・丸い）・トイレットペーパー芯
《道具》
ガムテープ・セロハンテープ・ビニールテープ

② 結果

さまざまな材料を使って試行錯誤しながらイメージを広げ，思い思いの販売機や出てくるモノをつくることを楽しむ姿が見られた（図６）。

検証保育後の幼児の声（表８）にもあるように素材の面白さに気付き，さらにイメージを広げてつくり，満足感を味わっていた。

図６　様々な素材を使い製作する姿

表８　素材の面白さに気付く幼児の声

検証保育後の幼児の感想

〇ストローを切るのがおもしろかった。

〇毛糸で沖縄そばをつくるのがおもしろかった。

〇Nさんに教えてもらって紙をくるくるにしたら本当にそばみたいになりました。

〇段ボール切るのはじめはできなかったけどがんばって切れてうれしかった。

③ 考察

幼児の発想やイメージを具体的にするために必要な道具や材料をすぐに教師が準備するのではなく，どんなモノをつくりたいのか，何を使うのか幼児と一緒に考えたり対話していくことで，自分のイメージしたものを見通しをもちながらつくることができたと考える。また，幼児の声から用意した材料だけでなく，遊びが広がっていきそうなストローや毛糸，花紙などさまざまな素材を材料置き場に用意したことで，自分の考えていた材料と組み合わせながらイメージを広げてつくっていた。そこから新たな素材を使う面白さや工夫して使えたことで満足感を味わい，つくりたいという意欲につなげることができたと思われる。

(4) 個に応じた援助

① 手立て

幼児一人一人が表現することを楽しめるように『表現を楽しむ過程における教師の援助』（表３）をまとめ，個に応じた援助を行った。

同じ場にいるが『表現を楽しむ過程』の段階の異なるＡ児とＢ児の活動を意図的に分ける援助を行った。

② 結果

自分なりのイメージをもち，販売機をつくりたいA児と，A児のつくっている販売機の面白さを感じているB児の『表現を楽しむ過程』の段階が異なっていた。それぞれの気持ちを受け止め，それぞれに応じた援助をしながらかかわっていくと，A児もB児も自分なりのイメージをもち販売機をつくって遊び，楽しむことができた（表９）。

表９　A児とB児の変容

発想豊かで自分のイメージをもっているが自分の思いを相手に伝えられないA児

【幼児の姿】

・自分のつくりたい販売機をイメージして段ボールでつくりはじめている。
・ペープサートの動物を持ったB児が来た。販売機をつくりながらもやりとりを楽しんでいた。
・販売機にハサミで切り込みを入れているとB児がハサミを奪う。ガムテープで支えをつくろうとすると横から入ってくる。「だめ貸して」と言うがきいてもらえない。少しずつ萎縮していく。

【教師の援助】

・A児のつくっている販売機の良さを伝え共感する援助。
・近くに居て見守り，安心して活動できるようにする。
・B児に自分の思いを伝えることを投げかける援助。それを見守る援助。言えたことを認める援助
・別の段ボールがあることを伝え，新しく販売機をつくることを提案する。

2人の活動を分ける援助

【幼児の変容】

○自分のイメージした販売機や出てくるモノを様々な素材を使ってつくり，ごっこ遊びも楽しむことができた。つくったモノをみんなの前で発表したことで自信にもつながっていった。

自分のイメージがもてず，面白そうな場所に自分本位に入っていくB児

【幼児の姿】

・みんなが販売機づくりをはじめる中，ペープサートのたぬきをもって製作をしている友達の所へ行き遊んでいる。
・A児の販売機に興味を示し，A児とやりとりをしたり，A児のつくる様子を見ている。
・A児が段ボールを切ろうとしたり，別の箱をつなげようとする姿を見てやりたくなり，ハサミもガムテープも取りあげてしまう。A児の思いに気付くがやりたい気持ちが強く出てしまう。

【教師の援助】

・ペープサートで遊ぶ姿に共感し，見守る援助。
・A児と一緒に製作する姿を受け止めながら，A児の思いを代弁したり，困っていることに気付かせていく。

2人の活動を分ける援助

・どんな販売機にしたいのかイメージを引き出しながら一緒に販売機づくりをする。

イメージをもたせる援助

【幼児の変容】

○2人の活動を分けた後，教師と一緒に自分でイメージした販売機をつくりはじめた。販売機づくりが軌道にのると，C児と一緒にいろいろな仕掛けを考えながら夢中になって製作を楽しんでいた。

ぽんたの森で遊ぼうの活動は，大きく分けて「ペープサートで遊ぶ」,「販売機などをつくる」,「つくったモノでごっこ遊びをする」と３つの活動があった。幼児一人一人それぞれの表現を楽しむ過程の段階は異なっていたが３つの活動のどれかを自分で選び，イメージを広げながら遊び，表現することを楽しんでいた。

③ 考察

絵本からイメージした遊びのそれぞれの過程にある幼児の思いに寄り添い，すぐにアイディアを提供するのではなく，自分自身で感じ，考えイメージをもたせるようにしたことで，つくる遊びやごっこ遊びなど表現遊びを発展させながら楽しむことができたと思われる。

A児とB児の活動では，教師が意図的に2人の環境を分け，それぞれが遊びこめる空間を保証した。人とのかかわりが良いこともあれば，活動の停滞，トラブルになることもある。その状況にある幼児に何が必要なのか，個々に分け遊び込む段階なのか，一緒に活動しながら折り合いをつけられる段階なのか見極めが大切であった。

同じ場にいて同じ活動や遊びをしていても，一人一人の発達段階や遊びへのかかわり方，そのときの心情や状況は違う。そのため，幼児がさまざまに表現したものをその過程に応じて丁寧に受け止め，言葉や動きで返していく。それにより幼児一人一人が表現することを楽しみ，意欲を高めていくことがわかった。

表現を楽しむ過程を４つの段階に分けて考え，その過程にある幼児に合ったかかわりを行っていくことで，その子なりの表現を楽しめるようになり，表現する意欲を高めていくことができたと考える。

2　作業仮説(2)の検証

絵本からイメージした遊びの中で，友達や教師と相互にかかわることのできる環境や援助を工夫することにより，表現する喜びを感じ，表現する意欲を高めていくことができるであろう。

(1) 友達や教師と相互にかかわる環境づくり

① 手立て

絵本からイメージした「ペープサートで遊ぶ」，「つくって遊ぶ」，「ごっこ遊び」など自分で好きな活動を選んで楽しめるようにした。

つくったモノで遊んだり，さらに遊びが発展できるように環境の工夫を図った。

② 結果

つくって遊ぶ活動について「つくることは好きですか？」と幼児の聞き取りから検証保育前と検証保育後の結果を比較すると，96%の幼児が「とても好き」と答えていた（図７）。検証前，幼児の聞き取りで，つくることは「すきではない」と答えていた幼児も友達と一緒に大きな段ボールを使って販売機づくりを楽しんでいた。ごっこ遊びでは，他の幼児とかかわって販売機やさんごっこをして遊ぶ姿も見られた。検証保育後，「とても好きではないけど，またつくって遊びたい」と答えていた。クラス全員がつくることが好きになったことがわかった。

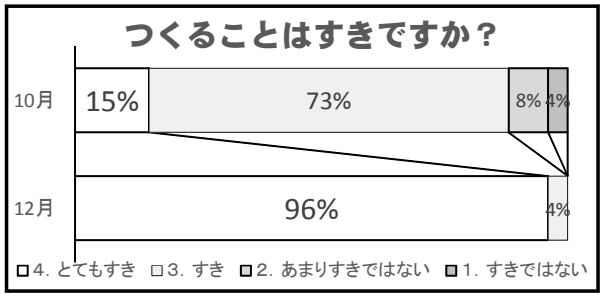


図7　つくることはすきですか？

また，製作活動やごっこ遊びなどを楽しむ中で，今までかかわりの少なかった幼児同士が販売機やさんごっこをしたり，友達のつくっている販売機に興味をもち一緒に活動をする等，この活動がきっかけとなり友達関係が広がっていく様子も見られた。

③ 考察

クラス全員が販売機づくりやごっこ遊びを楽しむ中で，様々な素材を使って，友達とかかわりながらイメージを広げて表現することに喜びを感じ，表現する意欲をもつことができたと思われる。

検証前につくることが「すきではない」と答えていた幼児も，友達と一緒に考えやアイディアを出し合いながら活動を楽しむことができた。このことから，ペープサートで遊ぶ，つくって遊ぶ，ごっこ遊びなど自分で好きな活動を選んで遊べるようにしたことが，表現することを楽しむために有効であったと考える。

(2) 友達や教師と相互にかかわる援助

① 手立て

絵本からイメージした遊びの中で，教師が仲立ちとなり幼児同士をつなげる援助，遊びや活動をつなげる援助を行った。

② 結果

Ｄ児の変容：クラス活動に消極的で友達とのかかわりの少なかったＤ児が教師に見守られながら次第に気のあった友達と一緒に製作を楽しめるようになった（図８）。

図8　D児の変容

Ｆ児の変容：教師の側に居て教師と一緒に活動していたＦ児が教師と友達の様子を見たり聞いたりする中で，少しずつ友達とかかわりながら製作を楽しめるようになった（図９）。

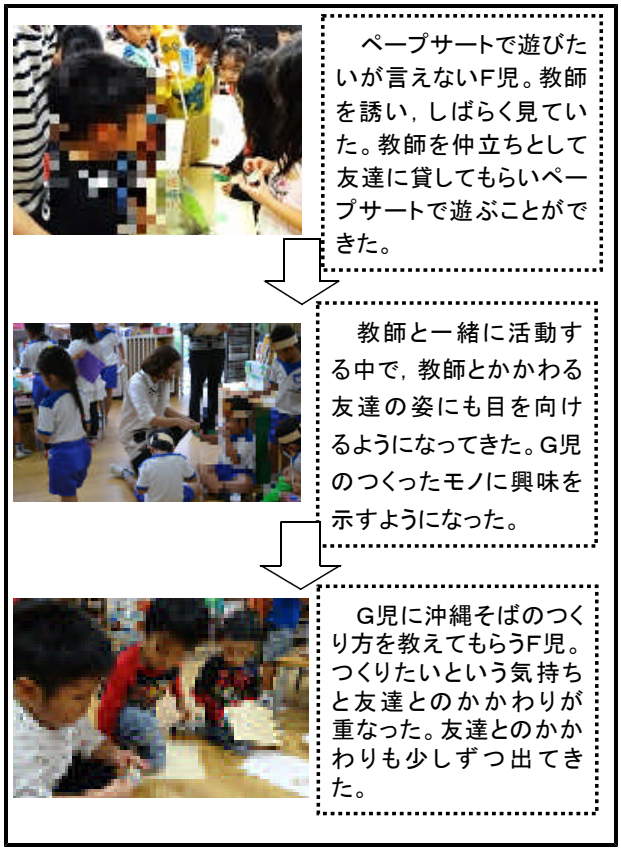


図9　F児の変容

製作遊びへのかかわりを検証前と検証後と比較すると，製作遊びにかかわろうとしない子が製作遊びを楽しめるようになり，教師と一緒に製作していた子が教師の手を借りずに自分なりの表現を楽しむことができるようになった（図10）。

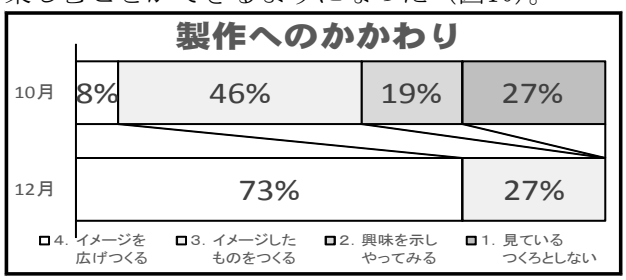


図10　製作へのかかわりの変容

③　考察

幼児がイメージを広げ，表現する意欲を高めるための手立てとして，幼児同士や教師と相互にかかわって響き合うことのできるような雰囲気づくりを行った。

クラス活動に消極的なD児だったが，ペープサートで自由に遊ぶ中で，徐々に友達とつなげていった。また，D児が友達の販売機に興味を示した姿から“つくりたい”という気持ちを読み取り，一緒につくるものを考え，材料を選び，製作していった。そこから，E児に目を向けさせ，つなげることで，友達と過ごす楽しさと，アイディアを出し合ってつくる面白さを感じることができ，表現する意欲が高まったと思われる。

Ｆ児は，“遊びたい”，“つくりたい”という気持ちはあったが，自信が持てず，教師と一緒に活動していた。信頼する教師が他の幼児とつくったり，遊んだりする姿を見ることで，友達のつくったモノや遊びにも興味を示すようになった。次第に「見て」と自分のつくったモノを見せたり，「これすごいね」と友達と思いを伝え合い，影響を受けながら，表現する意欲が高まっていった。

また，クラス全体で集まった際につくったモノを紹介したことで，発想のヒントになり，つくることやごっこ遊びが発展していったと思われる。保育実践の中で，クラスみんなで面白かったことや楽しかったことを共有する時間が持てなかった日もあった。その後の活動では，遊びが停滞してしまうことがあったことからも有効性が感じられた。

このように，幼児同士がお互いの思いや考えを出し合い，面白さを共有しながらつくったり，遊んだりする活動をしたことで，表現することを楽しみ，さらに表現する意欲を高めることができたと考える。販売機づくり，ごっこ遊びという一つの目的に向かい，共に遊ぶことを通して，友達の良さに気付いたり，協力したりといった姿を見ることができた。

Ⅸ　研究の成果と課題

1　成果

(1) 絵本からイメージした遊びを楽しむ中で，幼児の言葉や発想に共感し，受容したことで，幼児が自分のイメージしたことをのびのびとつくったり，つくったモノで遊んだり，表現したりすることを楽しむことができた。

(2) 幼児が表現したくなるような環境づくりにおいて，教材教具の工夫，表現するための素材や道具の工夫を図ったことで，イメージを広げながら表現することを楽しむことができた。

(3) 表現を楽しむ過程に合わせ，個に応じた援助を行ったことで，製作活動に消極的だった幼児も，自分なりにつくったり，つくったモノで遊んだりすることを楽しみ，表現する意欲を引き出すことができた。

2　課題

(1) クラス全体の遊びや幼児一人一人を理解し適切な評価をするための記録の取り方について工夫し，幼児の実態に応じた援助や環境構成について研究を深めていきたい。

(2) 年中行事や園の行事と関連した絵本からイメージした遊びの年間計画を作成し，活動に取り組んでいきたい。

(3) 幼児一人一人が遊びや活動を楽しむための過程を大切にしながら友達や教師と相互にかかわって認め合うことのできるクラスづくりについて研究し，保育実践に努めていきたい。

おわりに

今回，これまでの保育を振り返り，理論や実践の両面から「幼児が表現することを楽しむための教師の援助や環境づくりについて」深く考えることができました。本研究を進める中で幼児の心動かされた姿から“何を感じ”，“何をしたいのか”を読み取り，様々な援助や環境づくりを工夫していくことで，幼児の遊びが広がったり，深まったりすることがわかりました。実践の中では，教師が計画したことと幼児の興味関心や育ちとのズレが生じ，活動に教師の思いが強く出てしまうこともありました。そこから計画を立て直し，環境の再構成を行うことで，私が心から願っていた，幼児が遊びや活動を楽しみ，生き生きとした表現を楽しむ姿を見ることができました。

この半年間で学んだことを今後の保育に活かし，さらに深めていきたいと思います。

入所前研修から研修期間中，丁寧にご指導いただき，いつも温かく励ましてくださいました仲西起實所長，日髙聡係長，美差淳司指導主事をはじめとする研究所の職員の皆様，浦添市教育委員会友利愛子指導主事，浦添幼稚園の眞境名太樹副園長，検討会や報告会でご指導をいただきました浦添市教育委員会の先生方へ深く感謝申し上げます。

最後に研究の機会を与えると共に快く送り出してくださいました当山幼稚園の石川博基園長，いつも近くで見守り協力してくださった石嶺篤子副園長をはじめ職員の皆様，すみれ組の子どもたち，半年間の研究をともに支え合い乗りこえてきた第44期の研究員の先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

【主な参考･引用文献】

･保育実践用語事典	西久保礼造	ぎょうせい	1995年
･絵本から学ぶ子どもの文化	浅木尚美	同文書院	2015年
･ことばと表現力を育む児童文化	川勝泰介等	萌文書林	2013年
･幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	2008年
･保育用語辞典	森上史郎等	ミネルヴァ書房	2001年
･事例で学ぶ保育内容領域表現	無藤隆	萌文書林	2012年
･木内かつの絵本あそび	木内かつ	福音館	2014年
･読み聞かせわくわくハンドブック	代田知子	一声社	2001年
･新･保育内容シリーズ6　造形表現	おかもとみわこ等	一藝社	2010年
･最新保育講座11　保育内容「表現」	平田智久等	ミネルヴァ書房	2010年
･新保育講座保育内容「表現」	黒川建一	ミネルヴァ書房	2006年
･新保育ライブラリ保育内容表現	花原幹夫	北大路書房	2009年
･ぽんたのじどうはんばいき	作:加藤ますみ　絵:水野二郎	ひさかたチャイルド	1984年